

視覚的フィードバックにより 満足度の向上がみられた症例

～短時間通所リハビリテーションを利用している
パーキンソン病患者に対して～

らぽーる新潟 ゆきよしクリニック
作業療法士 中川 由子

はじめに

短時間通所リハビリテーションを長期利用している「走りたい」と希望のあるパーキンソン病患者に対しグラフを用いた視覚的フィードバックを行った。

歩行能力，満足度の向上が図れたので報告する。

事例紹介

A様 70歳代前半 男性

診断名：パーキンソン病，認知症

家族構成：妻と2人暮らし

希望：若いころのように走りたい

介護度：要介護2

利用サービス：短時間通所リハビリテーション

（H21年9月～H24年3月までは週3回．

H24年4月より週4～5回）

性格：まじめな性格．

運動に対し頑張りすぎる傾向がある．

初期評価(H23.5.23)

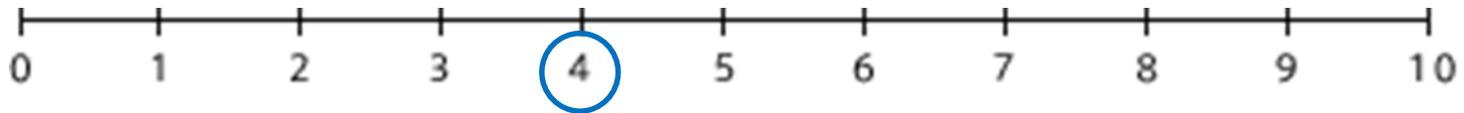
項目	
身体機能	
Hoehn・Yahrの重症度分類	Stage I
握力	右 29kg／左 23kg
片脚立位	右 18秒／左 10秒
5m歩行	4.9秒
歩行	上肢のふり幅・歩幅が狭い。すり足，小刻み歩行。
精神機能	
長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)	22/30点 減点項目(見当識，逆唱，遅延再生，物品記銘，流暢性)
日常生活動作	
Barthel Index	100/100点
自宅での様子	役割:ごみ捨て 運動:ストレッチ，散歩

初期評価での満足度

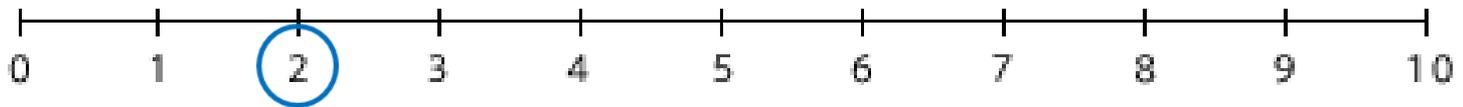
数値評価スケール：NRS(Numeric Rating Scale)

※各項目の満足度を「0:満足していない」「10:大変満足している」の11段階に分け、満足度の程度を数字で選択してもらった。

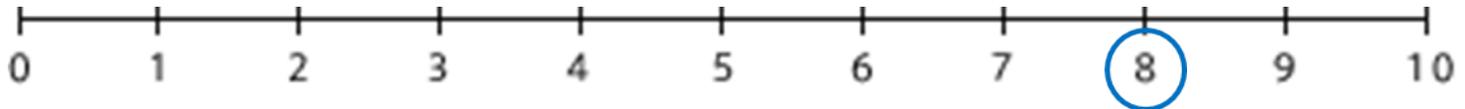
歩行



走る



体力



介入の基本方針

- ①日常生活動作は自立しているが、パーキンソン病による歩行障害がみられ転倒の危険性がある。
→歩行能力の維持・向上を図り、転倒を予防していく

- ②希望している動作について満足度が低い。
→症例の満足度に繋がるような対応をしていく。

作業療法実施計画

1回20分 個別作業療法実施

実施頻度：週3～5回

<プログラム>

- ①両下肢・体幹の関節可動域訓練
- ②両下肢・体幹の筋力強化訓練
- ③歩行練習 ※歩容改善を目的に実施

経過①(H23.5～H24.2)

歩行練習から長距離歩行練習へ変更した時期

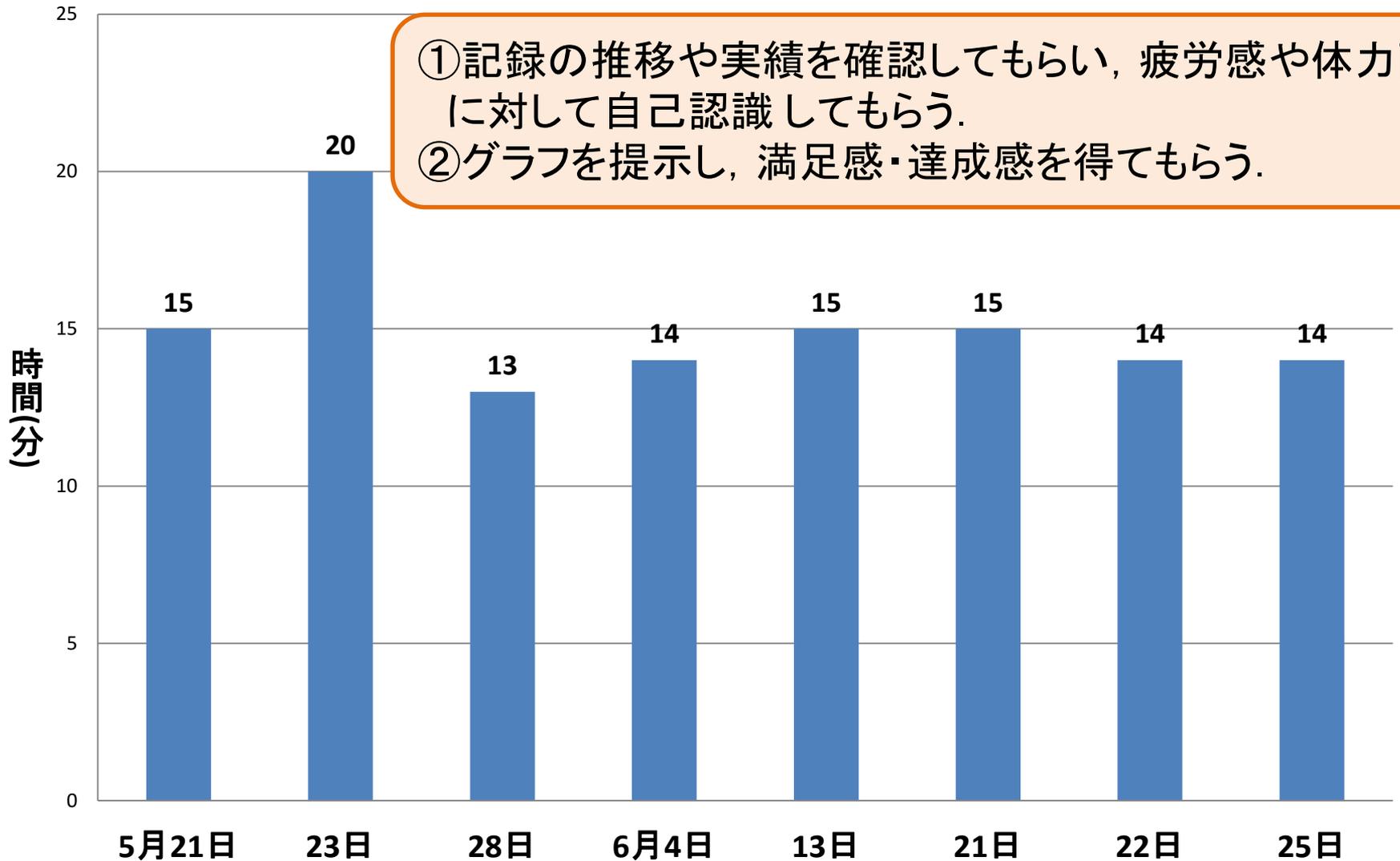
歩行	すり足, 小刻み歩行, 体幹の側方動揺がみられた.
関わり	「歩いて通いたい」と希望があった. 安全面, 体力面を考慮し, 承諾できないと伝えたが 「いつになったら許可ができるのか」と聞かれた.
プログラム	歩行練習⇒長距離歩行練習に変更 方法: 当院からリハビリセンターまで往復約1kmを歩く. 目的: 疲労感や体力面に対して自己認識してもらう. 満足感を得てもらう.

経過②(H24.3～11)

長距離歩行練習を行い，経過をグラフで提示した時期

歩行	すり足，歩幅を意識して歩行していた.
プログラム	長距離歩行練習 歩いた時間を計測し，内容をグラフにまとめ本人に提示した.
関わり	歩容やタイムが良かった日は称賛した. グラフ提示したところ「これは分かりやすくて良い」と話が聞かれた. 「走る練習がしたい」と話があった.

リハビリセンターまで歩いた往復時間(分)



経過③(H24.12～H25.5)

走る練習へ移行した時期

歩行	歩幅は拡大, すり足, 体幹の側方動揺が軽減した.
関わり	歩容や走るフォームをフィードバックした. 「歩いて通いたい」という話は聞かれなくなった.
プログラム	長距離歩行練習⇒走る練習に変更 走行距離 開始時は約32m 現在は約102mに向上した.

再評価(H25.5.28)

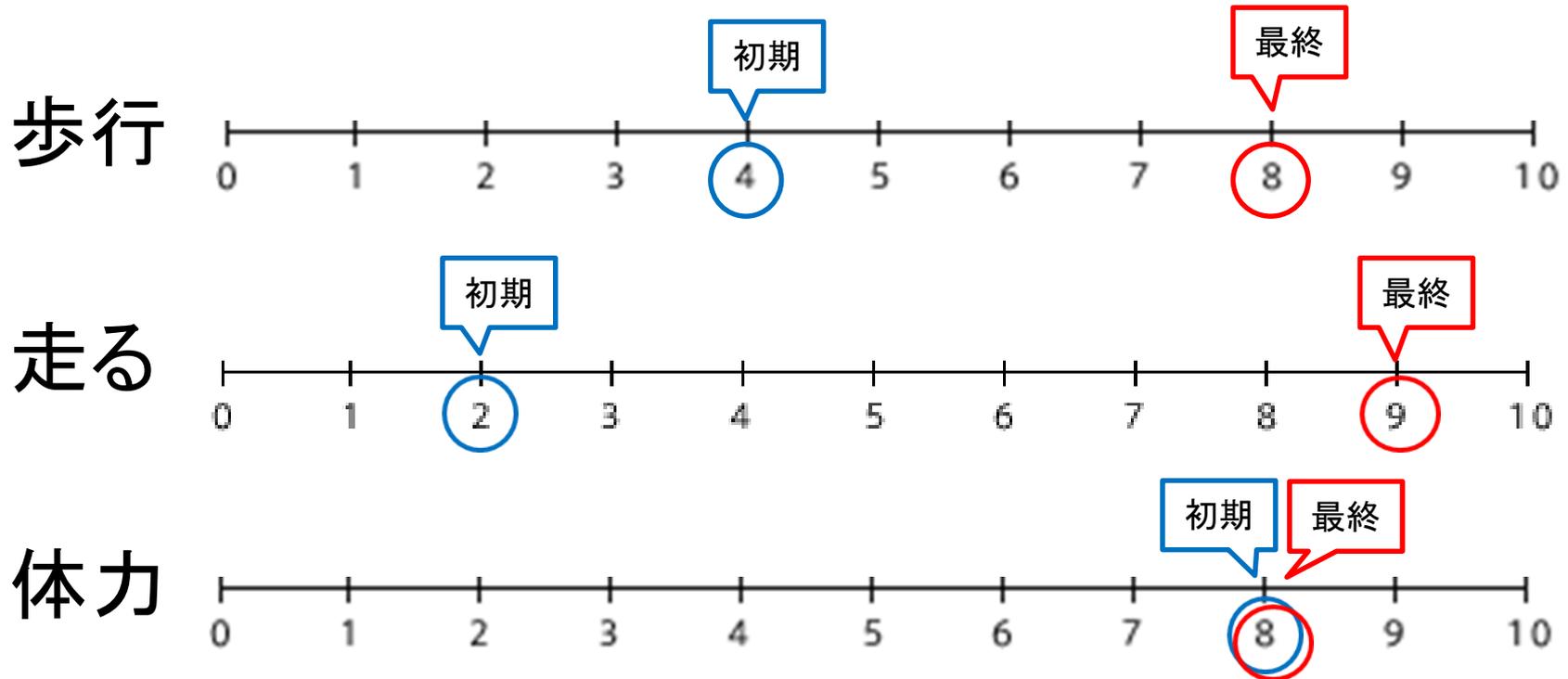
改善:赤 低下:青

項目	初期評価	最終評価
<身体機能>		
Hoehn・Yahrの重症度分類	Stage I	Stage I
握力	右 29kg／左 23kg	右 35kg／左 32kg
片脚立位	右 18秒／左 10秒	右 20秒／左 9秒
5m歩行	4.9秒	4.4秒
歩行	上肢のふり幅・歩幅が狭い。 すり足, 小刻み歩行.	上肢の振り幅, 歩幅が 拡大 . 練習時は常に意識して歩く.
<精神機能>		
長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R)	22/30点 減点項目(見当識, 逆唱, 遅延再生, 物品記銘, 流暢性)	26/30点 減点項目(逆唱, 遅延再生, 物品記銘)
<日常生活動作>		
Barthel Index	100/100点	100/100点
自宅での様子	役割:ごみ捨て 運動:ストレッチ, 散歩	役割:ごみ捨て 運動:ストレッチ, 散歩

再評価での満足度

数値評価スケール:NRS(Numeric Rating Scale)

※各項目の満足度を「0:満足していない」「10:大変満足している」の11段階に分け、満足度の程度を数字で選択してもらった.



考察

動機づけとは行動を始発させ目標に向かって維持・調整する過程・機能である。興味や楽しみなど内的な要因による内発的動機付けと、発生源により賞与など外的な要因による外発的動機付けに大別される。(最上,2011)

内発的動機づけ(興味・楽しみ)
走りたい



外発的動機づけ(賞与など)
グラフ(視覚的フィードバック)
OTの賞賛

視覚的フィードバックとしてグラフを提示し、OTが賞賛したことで自己認識することができ、内発的動機づけが高まった。

グラフが歩行能力、満足度の向上に有効